

発行所

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷4-5-10-205
TEL 03-5772-0677
FAX 03-6434-0184
URL http://jbwf.jp

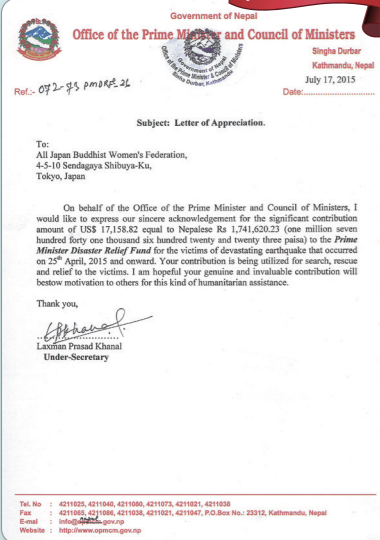
沙羅の樹

Saranoki

No.4

2015年秋号
10月10日発行

from Nepal



↑ルンビニのあるネパール
からのお礼状

和訳

2015年4月25日に発生した大規模な地震により甚大な被害が発生し、首相の災害対策基金を設けましたが、この基金に1,715,882 \$=1,741,620RPの多大な寄付がありましたことが確認できましたので、首相及び政府を代表して、心から感謝を表明します。この寄付につきましては、犠牲者の捜索、救助そして救援に使用させて頂いています。全日本仏教婦人連盟様の、心からの多額の寄付は、人道的支援として他のことにも良い影響を与え、ネパール人の大きな希望となります。有難うございました。

首相秘書官；
ラキシマン・プラサッド・カナール

白馬村と ネパールより 感謝状が 届きました

連盟の主要事業の一つに「心の募金」という活動があります。

あつてほしくない災害は次から次へと押し寄せてきています。被災された方々の少しでもお役に立ちたいと願い、救援のための準備金として、皆様からお預かりしている浄財を積み立てております。

皆様の日々のご協力、地道な活動のおかげで、いざという時に被災地に寄付することができます。

ありがとうございます。

←長野県の白馬村
からのお礼状

from Hakuba

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟 様

白馬村長 下川正剛 様

拝啓 雲の晴れ間の青空が懐かしい折柄、皆様には、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

昨年11月22日に本村を襲った長野県神城断層地震に際しましては、ご厚情あふれる義援金をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

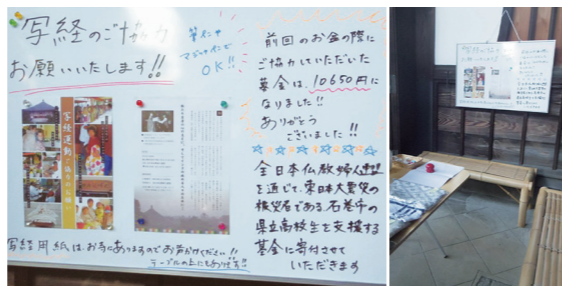
お寄せいただいた義援金は、被災された方々の一日も早い生活再建に役立てるよう確実にお届けさせていただきました。

未曾有の震災から7ヶ月が経過しましたが、本村では、雪解けと同時に道路や上下水道、農地などの復旧工事、被災家屋の撤去作業などに本格的に取り掛かるとともに、住宅再建に関する支援や被災者の心のケアなど、「震災復興対策室」を中心に職員一丸となって取り組んでおります。

村といたしましては、困難を乗り越え、村民と手を携えて、“ふるさと白馬村”の再生と更なる発展に向けて邁進して参る所存でありますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

このたびお寄せいただきました皆さまのご厚情に対して、略儀ながら書中をもってお礼を申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

敬具



↑ある寺院での募金活動の様子。←街頭での募金活動。

私たちの 活動報告

27年度文化講座予定

▶第93回

【日時】2015年10月21日(水)
午後2時 天王寺

【演題】知らないと怖い! 成年後見と高齢社会へのあわてないための備え

【講師】柴田龍太郎弁護士

▶第94回

【日時】2015年11月18日(水)
午後2時 天王寺

『青年僧と語らう～浄土宗～』

▶第95回

【日時】2016年1月20日(水)
午後2時 天王寺

『写経会』

編集後記

「関東・東北豪雨」につづき、阿蘇山の噴火。自然災害のおそろしさを目の当たりにし、大自然の脅威を感じずにはいられません。被災された地域の皆様には、こころよりお見舞い申し上げます。

今年は戦後七十年。戦後の日本は、経済的にも社会的にも驚異的に成長し、多くの人が「平和で豊か」と感じる国になりましたが、そのなかで失われてしまったことが多いことにも気がつきます。自然災害は、快適さばかりを求めてきた自分勝手な人間の暮らしを見つめ直しなさい、という大自然の警鐘にも感じます。大切なものを若い世代へと継承していくことができるよう、身近なところで、できることから努力してまいりたいと思います。(松井)

7月

1日 「全佛婦」121号発行

3日 第169回宗教法人審議会(文化庁)

9日 和宗四天王寺晋山式

(総本山四天王寺・シェラトン都ホテル大阪)

(公財)全日本仏教会第2回社会・人権審議会(明照会館)

22日 第1回常務理事会大会打合せ(ザ・キャピトルホテル東急)

28・29日 第7回東日本被災地訪問(石巻)

(公財)全日本仏教会財団創立60周年記念事業

30日 第2回勧募部会準備(明照会館)

8月

3日 念法真教立教90周年祭

(大阪・金剛寺・リーガロイヤルホテル)

4日 比叡山宗教サミット28周年(比叡山根本中堂)

(公財)新日本宗教団体連合会第50回戦争犠牲者

慰霊法要並びに平和祈願式典(千鳥ヶ淵墓苑)

15日 靖国神社慰霊参拝

25日 (公財)全日本仏教会第5回支援検討会議(明照会館)

31日 仏教タイムス取材

9月

2日 第170回宗教法人審議会(文化庁)

環境・広報委員会(天王寺)・懇親会

8日 (公財)全日本仏教尼僧法団結成65周年記念(霞山会館)

10日 (公財)国際仏教興隆協会臨時理事会(増上寺会館)

11日 (公財)全日本仏教会第3回社会・人権審議会(明照会館)

(公財)仏教伝道協会第17回仏教音楽祭

(恵比寿ザ・ガーデンホール)

(公財)日宗連主催第3回宗教法人の公益性に関する

セミナー(大本山増上寺・光摂殿)

16日 第4回役員会(天王寺)

第92回文化講座

17日 浅草寺晋山式(浅草寺・パレスホテル東京)

18日 全日本仏教青年会理事長就任祝賀会

(東京プリンスホテル)

28・29日 第8回東日本仮設訪問(釜石市・石巻市)

information

第62回 全日本仏教婦人連盟大会
戦争犠牲者慰霊法要

【日時】10月26日(月)11時から

【会場】ザ・キャピトルホテル東急
1階「鳳凰」

新年修正会法要

【日時】平成28年2月8日(月)

【法要】大本山護国寺

【新年会】ホテル椿山荘東京



無憂樹の会有志

第7回東日本被災地訪問

平成 27年 7月 28日 (火) ~ 29日 (水)

7月28日 (火)

全日仏婦の団体会員である無憂樹の会は全青協、宮城県浄土宗仏教青年会と合同で石巻市渡波地区の万石浦小学校体育館での支援を行うこととなりました。

学童クラブに参加する生徒1年生から5年生 100有余名の子どもたちを対象に、各団体が様々な楽しい催し物を行いました。

無憂樹の会では、子どもたちが自由にうちわに絵を描いたり色々なシールを貼ったりしてオリジナルのうちわを作製するイベントや、「お茶の入れ方講習」を行いました。急須にお茶の葉を入れてお茶を飲むことが初めてという子が多く、ペットボトルのお茶の味に慣れている子どもたちは「おいしい!」と大喜び。何度もおかわりをする子もいて大盛況でした。

子どもたちとの楽しい時間はたちまち過ぎて、あっという間にお別れの時間。最後に校庭でスイカ割りをして、退館しました。

一見元気そうに見える子どもたちですが、うちわの隅に小さな絵を描いている子どもが多かったり、気を引くように甘えてくる子どもたちもいて、子どもたちの心の内を痛感しました。

7月29日 (水)

気仙沼まで足をのばし、復興状況を見学。南三陸町の庁舎の周りは土盛りをしている最中で、庁舎が隠れる程の高さまで土に囲まれていました。

至る所で土盛りがされ海が殆ど見えなくなる状態で、「寂しいことだ…、災害とは、復興とは…」と思いながら帰宅しました。

篠田 節子

今回の古寺めぐりは京都大原への参加者36名の旅でした。梅雨の合間の大原の里は、かつて隠れ里と言われ、今でも自然豊かで落ち着いた場所です。声明や仏教音楽の生まれた地であることでも有名であります。京都駅に集合し、先ず大原の寂光院様を参詣させて頂きました。

も女院の法統が千年も永く続く歴史の重さが胸に響く様でした。瀧澤智明院主様のご法話を賜りました。そのお話の中に、自分なりに苦しみの中から幸せを掴んだ時、本当にそれは尊く、生きていて良かったと思う事が大切な事であり、全ての事に感謝して健康で他の方々のお役に立つ事に依って、この世に生まれてきた意味があるということをお聞き致しました。まさに身の引き締まる思いでした。その後、智明院主様自ら境内をご案内下さり、お食事まで一緒にして下さいました。本当に穏やかに楽しい時間に、ただただ感謝するばかりでございました。参加者の方々も院主様の親しみやすさに触れ、心が和んだ様子でした。

美味い昼食の後は、天台宗五箇室門跡のひとつである三千院門跡に向かいました。三千院門跡でもあたたかく迎えて下さり、堀澤祖門門主様が三千院について丁寧に分かり易くお話して頂きました。ご法話の中には砕を破ることが必要でそれは仏教という空という概念で、空の世界に飛び込んですべてを捨てることです。砕を破ることで地上の争い

が無くならないか、大きな心を持つことでいくらでも人を受け入れることができる心、具体的には菩薩、観音様のようにどんな願いも嫌とは言わない、つまり砕を破った心が大きいという風におもうということをお話して下さいました。どこを歩いても、川のせせらぎや、小鳥の声がお庭の苔と相まって、まさに心の垢が洗い流される思いで、六月の大原の里を満喫させて頂きました。

合掌
本多 端子

第91回文化講座 京都大原の古寺めぐり

6月23日(火)



ま来てきた意味があるということをお聞き致しました。まさに身の引き締まる思いでした。その後、智明院主様自ら境内をご案内下さり、お食事まで一緒にして下さいました。本当に穏やかに楽しい時間に、ただただ感謝するばかりでございました。参加者の方々も院主様の親しみやすさに触れ、心が和んだ様子でした。



Letters 01

お元気ですか？
僕はあなたのサポートを一度も忘れたことはなく、手助けして下さっていることに感謝しています。また、僕は学校のプログラムに参加しており、絵を描くこと、集会、クイズ等が好きです。ラムドンスクールには良い教育のための素晴らしい設備が整っています。あなたのおかげで僕の将来は陽の光にあたたかのように輝いています。将来の目標に達したら、支援して下さいたことを忘れずに、僕も同じように他の子供たちをサポートしたいと思います。

(10年生 ツェワン・マンラ)

Letters 02

お元気ですか。
私は毎日授業に出席しています。毎朝お祈り係がプレゼンをします。ドラマを演じたり、ニュースをラダック語・英語・ヒンディー語・スワヒリ語で伝えたりしますのでとても刺激的です。(中略)

次の夏はラダックへ来てくださいね!

(10年生 トンヨット・ドルジェ)

Letters 03

お元気ですか？
日本の天気はどうか。きっととても暑いでしょうね。ラダックは、暑くもなく、寒くもなく普通の天気です。間もなくテストが始まります。テスト頑張りますので、上手くいくようお祈りして頂ければ嬉しいです。そしてサポートして下さい、ありがとうございます。良かったら私に手紙を送ってください。いつも笑顔で!

(7年生 ツェリン・デバル)

現在、世界の多くの人は貧困、飢餓などに苦しんでおり、1日を約100円以下ですごしている人が約10億人います。アジアでは今もなお、約3500万人の子どもが小学校に通っておらず、有害・危険な児童労働で搾取されている5歳から17歳の子供は7772万人もいると言われています。そしてこの豊かな日本社会でも、子供の貧困問題が深刻化しています。昨年、厚生労働省が発表した「子供の(相対的)貧困率」は過去最悪の16.3%に上り、6人に1人の約325万人が「貧困」に該当。これは、豊かな先進20カ国のうち、4番目の高さにあります。貧困は遠い国の問題ではなく、すぐ私たちの身近で起こっている問題なのです。そんな貧困で苦しむ子どもへの支援が日本でも活発になってきています。

Letters from children 里親運動

当連盟ではインドベナレスのDCVの6名とSRFの1名そして標高3500メートルのラダックの学校に通う3名を支援しております。

新しい里子4名の紹介をします。

それぞれの家庭環境は、父、母(主婦)、兄弟、姉妹の家族です。家、土地、畑が十分でないため収入が少なく、父親の収入だけでは経済的に学校に通わせることができません。しかし親は教育に熱心で、何とか継続して教育を受けさせたいと願っています。そして、子供たちは成績優秀で、農村や国の貧しい人々の役に立ちたいという夢を持っているのです。

DCV (ダルマ・チャクラ・ヴィハールスクール)に通う子供たち

★アンクール・クマル

14歳 / 7年生 (中1) / 男 (5人家族)
父親が手織り職人、将来は学校の先生。

★ディーバク・パテル

12歳 / 6年生 / 男 (5人家族)
父親が日雇い労働者、将来はエンジニア。

★マノジュ・クマル・パウダ

9歳 / 6年生 / 男 (7人家族)
父親はお寺で社会活動家として手伝い、将来はお坊さん。

★サハブ・ヤダフ

10歳 / 6年生 / 男 (10人家族)
父親が日雇い労働者、将来は軍隊。



子供たちの
今を知る

